

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 95 2013年12月21日発行
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

今年もご支援をありがとうございました

“2014年チェルノブイリ救援カレンダー”
好評発売中です



上段・中央：6～7月 子どもたちの保養 ウクライナ&ベラルーシ
下段：5月 チェルノブイリ被害者家族の保養 ベラルーシ

チェルノブイリ 28 周年救援イベント

2014年4月12日～16日 広河隆一写真展「チェルノブイリと福島」

2014年4月24日 講演会 広河隆一/シネオカヤ・インナ (ウクライナ)

2013年の支援活動報告



今年も皆様の募金のおかげで支援活動を行うことができました。

ほんとうにありがとうございました。来年もご支援をよろしく願いいたします。

(2013年1年間の会計報告は、ニュースレター3月号に掲載いたします。)

支援の内訳	
ウクライナ	医薬品代：内分泌研究所
	運営費：「チェルノブイリ子どもたちの生存」
	汚染地域の病気の子どものための特別保養費
	里子支援・緊急支援
ベラルーシ	医薬品代：「困難の中の子どもたちへ希望を」「チェルノブイリのサイン」、 「希望 21」
	運営費：「困難の中の子どもたちへ希望を」「チェルノブイリのサイン」
	汚染地域の子どもの年間保養費の一部：「希望 21」
	クラブ活動備品代：「希望 21」
	甲状腺、その他の腫瘍病の子どものための特別保養費
	チェルノブイリ被害者家族のための保養費
	里子支援・緊急支援
クリスマス会・子どもたちへのプレゼント代「困難の中の子どもたちへ希望を」	

ウクライナ 内分泌研究所

チェルノブイリ子ども基金のみなさま

日本のみなさまへ

チェルノブイリ被害者の治療のための医薬品ご支援に対し、深くお礼を申し上げます。ご支援いただいた医薬品について報告します。

チェルノブイリ事故当時0～18歳で、甲状腺がんの手術を受け、甲状腺を切除、放射性ヨード治療を受けている患者に医薬品を手渡しました。

Lチロキシン（甲状腺ホルモン剤）2744箱のうち、2527箱が200人の患者に手渡されました（キエフ市40人、キエフ州28人、チェルニゴフ州12人、ジトーミル州15人、チェルカッスィ州12人、その他ウクライナ各州）。

2013年10月1日時点での残は217箱です。

カルシウム剤625箱のうち、416箱が97人

の患者に手渡されました。（キエフ市18人、キエフ州10人、チェルニゴフ州13人、ジトーミル州10人、チェルカッスィ州8人、その他ウクライナ各州）。2013年10月1日時点での残は209箱です。

内分泌研究所 所長 N・トロニコ

放射線核種診断部門 副部長 V・マルコフ

~~ 薬を受け取った患者さんたちより ~*~*

☆ワレンチーナ・S

(1974年生まれ／チェルカッスィ州)

治療を受けて薬をいただきました。体調はだんだんよくなっていると感じています。ご支援にとっても感謝します。

☆リュボーフィ・K

(1984年生まれ／ロヴノ州)

病気の治療に必要な薬をご支援いただきありがとうございます。私の家族もチェルノブイリ子ども基金に感謝しています。

☆スヴェトラーナ・S

(1980年生まれ/ヘルソン州)

この薬のおかげで私の体調はとてよくなりました。ご支援をほんとうにありがとうございます！



看護師から薬を受け取るスヴェトラーナさん。
(内分泌研究所 放射性ヨード治療部門)

ベラルーシ 慈善団体

「困難の中の子どもたちへ希望を」

病気の子ども（4～17歳：190人）を会員にもつこの団体では、毎年子どもたちのためのクリスマス会を開催しています。年に1度のこの会は、子どもたちやその親たちにとって大切な交流の場になっています。子どもたちにささやかなプレゼントを用意したいのに、地元の企業などからの寄付を集めるのは年々難しくなっているといいます。そこで、今年も子どもたちのプレゼント代として、1000ドルの支援を行いました。

団体の病気の子どもの内訳：白血病・その他の血液病 40人、脳腫瘍 33人、小骨盤のがん 23人、目の腫瘍 18人、腎臓がん 16人、肝臓がん 14人、甲状腺がん 13人、鼻咽頭のがん 8人、皮膚がん 4人、その他（染色体異常、先天性の病気などの病気の子ども 21人）。

2014年支援の予定

＜ベラルーシ＞

児童健康回復センター「希望 21」:放射能汚染地域に暮らしている子どもたちの保養費用の一部を支援します。「腫瘍病の子どものための特別保養」「甲状腺ガンの手術を受けた親とその子どもの特別保養」をこのセンターで実施します。

慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」:この団体の里子・奨学生の支援を継続します。「希望 21」で開催する子ども・家族のための保養費用、会員の子どもたちの医薬品代、スタッフ給料と事務所維持費の一部を支援します。

慈善団体「チェルノブイリのサイン」:

この団体の里子支援を継続します。スタッフ2名分の給料を支援します。

＜ウクライナ＞

病院「内分泌研究所」:甲状腺の病気の患者の医薬品代を支援します。

慈善団体「チェルノブイリ・子どもたちの生存」:

この団体の里子支援を継続します。スタッフ給料と事務所維持費の一部を支援します。

「汚染地域に住む病気の子どものための特別保養」:クリミア半島の子どもサナトリウムで実施します。

※子ども基金が支援したものは、現地団体・病院が物品等を購入後、領収書を提出してもらいます。子ども基金は、書類上のチェックと、事務局スタッフが現地を訪問した際に、現物の確認を行っています。



チェルノブイリ 28 周年救援イベント 2014 年 4 月



チェルノブイリ原発事故から 28 年、福島原発事故から 3 年となる来年 4 月、講演会と写真展を開催します。講演会には、広河隆一さんと、ウクライナからシネオカヤ・インナさんをゲストに招きます。キエフ在住のインナさんは、1981 年 10 月生まれ、4 歳の時に原発事故で被曝。およそ 10 年後に小児甲状腺がんを患い、甲状腺の全摘手術を受けました。ウクライナの救援団体を通じてチェルノブイリ子ども基金の支援

を受け、1996 年と 97 年にベラルーシのサナトリウム「希望 21」で甲状腺手術後の子どもたちを対象とした特別保養に参加しました。その後、2007 年に結婚。翌年妊娠が分かりましたが、検査の結果が思わしくなく、ガンの再発の可能性があることが分かりました。子どもを断念し、精密検査と必要に応じて治療を受けることを、いくつもの病院で強く求められました。しかし体調不良の中、これを拒否して出産することを決断し、自ら受け入れ病院を探すなどして、2008 年 10 月に長女のマリアンナちゃんを出産しました。インナさんとマリアンナちゃんの写真は、子ども基金の以前のカレンダーやパンフレット、ポストカードなどにも使われています。2011 年には福島第 1 原発事故を受けて、子ども基金を通じて日本人々へのメッセージを寄せてくれました。2012 年のパホモワさん親子に続き、チェルノブイリ原発事故の被災者であるインナさんから直接、原発事故が人生に何をもたらしたのか、そのお話を伺います。(インナさんの講演は三重県でも行われます)

☆イベント開催のための賛同金を募集しています。一口 1,000 円
郵便振替口座 00160-4-98316 チェルノブイリ子ども基金

< 東京 >

◆広河隆一写真展「チェルノブイリと福島」4/12(土)～4/16(水) 1000～2000

文京シビック 1F 展示室2 入場無料

◆講演会「チェルノブイリと福島」4/24(木) 19:00開演(18:30開場)

文京シビック 小ホール(東京都文京区) 東京メトロ「後樂園駅」、都営地下鉄「春日駅」

入場料:1000円(中学生以下無料)

*広河隆一 (フォトジャーナリスト/Days Japan 編集長/「沖縄・球美の里」理事長/
「チェルノブイリ子ども基金」設立者)

*シネオカヤ・インナ(ウクライナ)

〔主催〕チェルノブイリ子ども基金/チェルノブイリ子ども基金・文京/未来の福島こども基金

〔予約受付・問合〕チェルノブイリ子ども基金

Tel/Fax: 03-5228-2680 E-mail: cherno1986@tokyo.email.ne.jp

< 三重 >

◆チェルノブイリ 28 周年企画 <チェルノブイリ・福島 いのちは宝>

4/26(土) 1330～1600 津リージョンプラザ お城ホール(三重県津市)

入場料:2000円(前売り1500円) 大・高・中生500円(前売り当日同額)

内容 ・シネオカヤ・インナの話を聴く ・音楽①内田ボブ②ラニヤップ(小室等ゆい)
・朗読劇「チェルノブイリ」高校生 ・三重大医学部生による展示

〔主催〕みえ426の会 〔問合〕(仮)広河写真展事務局 Tel: 059-229-3078

チェルノブイリ絵画展・広河隆一写真展

2013年9月・11月

9/16～19、新座市

ほっとぷらざのギャラリー
で『チェルノブイリ
の子どもと福島の子
どもの絵画展』を開
催しました。原発事



故が起き、たくさん子どもやお母さんが苦しんで
いるというのにちっとも周知されていない、そして
その苦しみは福島の人々のものだけではないのに、
という気持ちから、何か私にできないものかと考え
ていました。そんなとき文京シビックにおいて絵画
展が開催され（※2013年4月、チェルノブイリ子
ども基金・未来の福島子ども基金が開催）、これだ！
と、ほとんど無計画にギャラリーを予約しました。

レイアウトをカテゴリー別に『事故が起きた』から
『希望』へ、その後球美の里の絵画、ドラゴン・
プロジェクトの作品、最後に放射能測定機やホールボ
ディカウンターなどの写真パネル、日本全土の汚染地
図などを壁に展示しました。手持ちの DAYS JAPAN
を数冊、警戒区域の衝撃的な写真が見えるように、
食品汚染や小出裕章先生の本なども並べました。絵
画を鑑賞する流れの中で自然に、原発事故を人ごと
ではなく感じて貰いたかったからです。とりわけチ
ェルノブイリの子どもたちの絵は本当に表現が豊か
で、人々の心を開かせてくれました。原発事故のこ
とを言葉にすることをためらっていた人々が「そう
いえば原発は動いてないね、それでもどこも何とも
ないね」「5歳で亡くなったダウン症の孫がしまし
た。口もきけないその子がとても好きな絵本があっ
てね。絵は素晴らしい」「郡山にいる娘に、帰っ
てくるように言ったら、友達を置いて行けない、覚悟
は出来ていると・・・」と、涙ながらに語る人も少
なくありませんでした。とりわけ「今までで一番意味
のある絵画展でした」と言われたことは嬉しいこと
でした。多くの人が原発事故に不安や怒りを持って
いることを知りました。「私も何か出来ることをし
ます」来場者からこの言葉を何度も言われました。
絵画が心を繋いでくれたのです。絵画展を開催した
ことで、むしろ私が勇気づけられました。今でも、
壁に並んだ子どもたちの絵が輝いて目に浮かびます。

豊かな時間をいただきました。ご協力いただいた
「広河隆一写真展事務局」、「未来の福島子ども基
金」、そのほかの皆様は心より感謝いたします。

(新座市 藤井 千賀子)

11/16～17、平成国際大学にて大学祭が行われまし

た。私はボランティア・サークルに所属しており、か
ねてから自分にも出来るボランティア活動を大学祭
でやりたいと思っていました。そこで、今回私が出
来るのは、「皆さんに知って貰う」という事だと考
えました。

旧ソ連・中東欧について学ぶゼミにも所属してい
る私は、ゼミの先生や仲間と話し合い、展示のテー
マをチェルノブイリ原発事故にしました。事故で何
の罪もない子ども達が被曝した事実、今でも甲状腺
の病を抱えている人々、チェルノブイリの現状を1人
でも多くの来場者に知って貰いたいと思い、展示品
を集めました。「広河隆一写真展事務局」や「チェ
ルノブイリ子ども基金」からお借りした数々の貴重
な写真や子ども達の絵、ゼミの先生が提供してくだ
さった資料、ウクライナから日本への支援や、ナター
シャ・グジーさんの活動等を展示しました（ゼミでは
ポレシチも作って売りました）。それと並んで、ボ
ランティア・サークルの活動、福島の子どもの絵、
意外と知られていない東日本大震災における諸外国
のさまざまな形での対日支援、世界中の人々が東北
を励まそうと描いてくれた1枚1枚の絵を繋げた
「ドラゴン・プロジェクト」等も紹介し、サークルのメ
ンバーと一緒に募金してくれた方々のためにミサン
ガを編みました。

展示には両日共に多くの方々がいらしてくださり、
中にはお連れの小さなお子様にも「お母さんはやく
ー！」と急かされてしまうくらい熱心に観てくださ
る方もいました。2日目には、遙々遠方より「子
ども基金」の向井さんと佐々木さんもお越しくださ
いました。

今回の展示を行うにあたり、ご協力くださった
「広河隆一写真展事務局」、「チェルノブイリ子
ども基金」、先生方、ボランティア・サークル、ゼミの皆
さんに深く感謝を申し上げます。

(平成国際大学 内藤 絵美)

※大学祭での展示の様子はp.14をご覧ください。⇒

2013年6月 家族訪問 ベラルーシ(2)

報告 佐々木真理

Z. レオニード 2001年生まれ ゴメリ市

母親の話。「ある時から息子はとても疲れやすくなっていきました。学校から帰ってくるとすぐに横になったりすることが多くなりました。いろいろな検査の結果、がん（悪性リンパ腫）であることがわかり、ミンスクの病院に送られました。

昨年2月のことです。化学療法を受けた後、がんに直接照射するレーザー治療を受けました。食欲が落ち、髪の毛がほとんど抜けました。その後、3か月に1度、今は半年に1度検査に行っています。体調の変化をみるために、血液検査は頻繁に受ける必要があります。病気

になってからは、学校には通学せず、先生に家に来て勉強をみてもらっていました。時々近所の友達が遊びに来て部屋で遊んだり、中庭で遊んだり、私の目の届くところで遊ばせています。体の抵抗力が弱いため、9月の新学期から通学するかどうか、まだ決めていません。体がとても弱いのでとても心配なのです。それに、もし、転んだり、怪我をしたりしないかという心配もあります。

私は店員の仕事をしていますが、アパート代、公共料金代、食費で、給料はほとんどなくなってしまいます。中庭に小さい菜園があります。そこで自分たちが食べるための野菜



を作っています。（「普段の買い物で、放射能のことは気にしていますか」の質問に対して）この町で食べ物を買うとき、放射能のことは気にしていません。必要なものを買って食べるだけです。少しでも安い市場で買います。

離婚した夫は何の援助もしていません。息子をどこかに遊びに連れて行ってくれることもありません。実の父親なのに、悲しいことです。日本からの支援のことを知ったとき、自分のこととは信じられませんでした。父親や、祖母が無関心なのに、遠くの国の人々が助けてくれるなんて、本当に信じられませんでした。心から感謝しています」

I. マトヴェイ 2008年生まれ ゴメリ市

母親の話。「悪性腫瘍が見つかり3回目の手術を受けました。化学療法後、髪の毛が抜けました。痙攣も起きたりして、とても大変でした。親戚の中には少しずつお金を集めて援助してくれる人もいれば、私たちから距離を置くようになった人もいます。近所の母親たちの中にも、公園などで私たちを見ると去って行く人もいます。何か伝染するとも思われているようで、悲しいです。病気になる前はとても活発な子どもでした。化学療法後は、強い太陽を浴びてはいけないため、夕方、陽が落ちてからしか外では遊ばせません。ほとんど家で過ごしていて、コンピュータゲームとかテレビを見るだけです。もし何かのウイ

ルスなどに感染したらと思うと心配で、人の多い所には連れて行けません。一番深刻なのは、息子がこれから成長して大人になったとき、自分の体のことを知ったらどんなショックを受けるのかということです。どうやって説明したらよいのか、今からそれに備えておかないといけないと思っています」

母親はずっと涙ぐみながら話していた。家族は、母方の祖父母のアパートに同居。訪問時、祖父母はダーチャ（郊外にもっている畑）に行っていた。「野菜など買っていたらとても生活できません。国からの補償はほんの僅かで、両親の助けがなかったら暮らしていけません。化学療法後、息子は食欲が減退しました。精神的なものが原因



なのか、化学療法の影響なのか。食べ物も、なにもかも全てマトヴェイのためになるよう気を配っています。ミンスクの小児がんセンターに毎月検査に通っていますが、通院の交通費も大変です。私は、息子の介護のため仕事を辞めざるをえませんでした。薬局に行っても必要な薬がないことも多いです。ベラルーシ製のいくつかの薬は無料ですが、他の薬はみんな買わなければなりません。ベラルーシ製の薬が体質に合わず、高価な薬が必要だとわかったとき、すぐに車を売ってお金を作りました。病院で、ゴメリに救援団体があることを教えてもらい、会員になりました。病

気の子どもをもつ母親同士、みんなで励ましあい、助け合っています。退院後も連絡を取りあったりしています」

「どこからこんな病気がきたのか、誰も教えてくれない」と母親が言うと、それまで黙っていた父親が「ある医師は“チェルノブイリのせい”と言っていたじゃないか」と口を開いた。父親はヴェトカ地区コセツコエ村の出身。事故当時は1歳だった。数年後、村は高濃度に汚染されていることがわかり、家族でゴメリ市に移住。血圧に問題があるという。「あんな放射能のあるところで育ったのだから、体がおかしくなって当然です」と話した。母親はゴメリ市の出身。「原発事故のあった時、変な雲を見て恐ろしくなり、すぐに窓を閉めたことを覚えています」

「僕は父親になりました！」

A・サーシャ 1984年生まれ ゴメリ市

子ども基金は、97年4月に甲状腺がんの手術を受けたベラルーシとウクライナの子どもたち10人を招待し、各地で救援キャンペーンを行いました。そのときの来日メンバーの一人、サーシャが父親になりました。



喜びのメールが、娘の写真とともに送られてきました。

11月2日、スペースたんぽぽ（東京・水道橋）において「チェルノブイリ子ども基金」「未来の福島こども基金」主催の報告会を開催しました。当日は、子ども基金の催しに初めて参加された方、里親をされている方など、61人のご参加がありました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。報告会の内容は次の通りです。

~~~~~

◆**チェルノブイリの子どもたちの保養「サナトリウム・希望」**（チェルノブイリ子ども基金事務局 局長 佐々木真理）2013年夏に開催した、「病気の子どもたちのための特別保養」の様子と、ベラルーシのサナトリウム「希望」について報告。

「ベラルーシでは、障がい児の認定基準が年々厳しくなったり、いろいろな補償が削られたりしているが、保養に関してはまだ国家が支援を続けている」ベラルーシより経済的に恵まれている日本の現状の貧しさを痛感させられる。（\*夏の保養の報告は、基金ニュース2013年9月号に掲載。）

◆**ビデオ上映（チェルノブイリ子ども基金 理事 小寺隆幸）**2013年2月、学生たちと共に「希望」を訪問。授業風景、医療棟での治療の様子、食堂、体育館、子どもたちの様子などを、ビデオ報告。保養中の子どもたちの様子をリアルに伝えた。

◆**「サナトリウム・希望」訪問**  
（ボランティア 福島祐子）

2月の訪問当時は大学4年生、現在は都内の小学校の先生。教室開催や子どもたちとの交流の様子を報告（写真は、ゴメリ市の学校から「希望」に保養に来た子ども）。



・医療棟の設備：それぞれの体調に応じた治療、自然を利用した治療、心の治療など。  
・滞在中の子どもたちとの交流：折り紙教室、日本語教室（習字）、手作りおもちゃ教室の開催  
☆「希望」所長のマクシンスキーさんは、「チェルノブイリ事故の6年後、ソ連が崩壊した。1年後に施設が誕生。国民の理解があったからこそ、この施設は続けてこられた」と話した。滞在中に見聞きしたことを通して、自分は何だけ放射能のことを理解しているのだろうかと感じた。ベラルーシでは、広島の復興を手本としてきたという。息の長い支援が必要（\*学生たちの訪問の様子は、基金ニュース2013年3月号に掲載）。

◆**福島の子どもたちの保養「沖縄・球美の里」**  
（ボランティア 飯出さえ）ステンドグラス作家。これまでに4回ボランティアとして「沖縄・球美の里」を訪問、その様子を報告。

・1日のプログラムを紹介。シーザー作り、自転車乗り（福島では外遊びがあまりできないので乗れない子どももいる）、黒糖づくりなどの体験や、久米島の自然・文化に触れる様子。四季折々の久米島の行事をプログラムに取り入れている。  
・できるだけ島の食材を使った食事を提供。食材の放射能を測る。  
・職員は少なく、ボランティアと島の人たちの協力で成り立っている。  
・海で遊ぶ子どもたちの様子。保養のメインは海、初めて海に入る子どももいる。  
・保養に参加した母親たちの声。「福島では洗濯物を外で干せないのが、放射能を気にしないで外に干せるのがうれしい」  
☆免疫力を高めるためにいろいろ工夫したり体

感してもらったりしている。浜辺で拾ったガラスを子どもたちと作品にしたりもしている。自分の母親は、戦後、引揚者に対して、レントゲン検査を行ったときに看護婦として携わり、その 27,8 年後に甲状腺がんを発病した。「DAYS JAPAN」で「球美の里」のことを知り、退職してからボランティアを希望した。

◆最後に「チェルノブイリ子ども基金」と「未来の福島こども基金」を代表し、それぞれ一言ずつ述べた。「ベラルーシの希望を目標に、球美の里の施設の充実が望まれる。また、クラス単位、学校単位の移動教室の実施に向けて、行政や国に対しての働きかけが必要」(向井雪子)「子どもたちが住めないような放射能汚染があるところにも、子どもたちが住んでいる現実。少しでも放射能から離れ、のびのびと外で過ごして、免疫力をつけてもらいたい」(黒部信一・小児科医)

~~~~~>\*>\*>\*>~~~~~

■報告会終了後の質疑応答では、多くの参加者の方からご意見やご質問があり、意見交換も行われました。

○神奈川県丹沢に、いわき市の子どもたちを保養に呼んでいる。丹沢もいわきと線量が変わらない。この保養に意味があるのかと思ってしまう。

○線量だけが問題ではない。人とのつながりをもつことで、他の場所でも暮らしていけそうだと思うたりして、それがきっかけで移住を決意した子どももいた(別の参加者がお答になりました)。

○福島の子どものための保養を受け入れる団体はたくさんできた。全国の組織はあるけれど、都内とか、関東近県の団体をまとめるような組織はない。横の連絡がとれるようにできたらよいと思う。

~~~~~>\*>\*>\*>~~~~~

■アンケートにも多くの方から回答がありました。一部をご紹介します。

◇メディアだけからは決して得られない貴重な情報や、なんといっても実際に活動に参加している方から生の声を聞くことができ、有意義でした。(30代 男性)

◇子ども基金の通信を何年も読んでいますが、今日は映像もまじえ、より現地の様子がよくわかりました。福島の子どものための保養事業にも寄付しながら、ずっと活動に関心を持ち続け、多くの人に伝えていきたい。体力のあるうちにボランティアにも参加できたらと思った。(40代 女性)

◇放射能汚染被曝の様相の一端を知ることができてよかった。自分にできることは何か考えさせられた。保養の意味が分かった。(50代 男性)

◇本来、国、政府がバックアップしてくれるのですが。そうしてくれるまでには、時間がかかるかと思います。あきらめずに地道に活動していくことの大切さを感じます。(50代 女性)

◇資料や本でなく、①狙い②内容③今後のことも含めて、映像を使いわかり易かったと思います。子どもたちの姿、映像、視線がよくわかりました。福島の子どものための保養について、行政としては無為無策の中で、50年後 100年後を見据えたこのような地道な活動に参加すること、自らも動いていく志向を励まされる内容です。対話と MEETING DEMOCRACY のある集まりと団体だと思いました。スタッフの方々ありがとうございました。(60代 男性)

◇支援のことができてよかった。チェルノブイリの子どものための保養が、日本の子を気にしてくれているのには感動した。「横につながりたい」という声がある。大切にしたい。(40代 女性)

◇保養に幼稚園や学校の教員がついていくチェルノブイリのシステムより、日本の実態に合った工夫も必要かと思いました。(60代 女性)

東日本大震災が起きてから2年9か月経った今、被災者に応急仮設住宅の供与期間・雇用保険の延長等、暫定的な生活支援が行われていますが、長期的に生活が安定できるとは言えず、特に社会保障が徐々に切り詰められているため、一層生活が逼迫する可能性があると考えられています。その中で注目されているのは東京電力福島第一原子力発電所事故の被災者への支援です。2012年6月21日に、原子力事故子ども・被災者支援法が可決され、6月27日に施行されました。この法律は、「住居・避難・帰還」の選択を被災者が自らの意志で行う事ができるよう、国が支援を行う内容です。しかし、一年以上棚上げされ、2013年8月20日に福島県の住民や県外への自主避難者らが、早期策定を求め東京地裁に提訴した後30日に、基本方針案が公表されました。

私は、放射能に対して感受性の高い子どもへの支援が急務であり、特に放射能汚染が「ない」所で「人並み」の生活、つまり日本国憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活」を送る事が必要であると考えました。ベラルーシが原発事故被災者を支援する政策の一環として保養を支援している事、また、放射能に「負けない」ための免疫力を付ける事も示されている事を聞き、保養について学びたいと思い、2013年2月下旬にベラルーシの保養施設「希望」を訪問しました。

ベラルーシは汚染地域に住んでいる全ての子どもに対し年に24日間の保養を国が支援しています。国内に9か所ある保養施設の一つ「希望」では、小学生から高校生までの子どもを一度に300名以上受け入れています。「外見では把握できないが、90%弱の子どもが身体に何かしら異常がある」と説明を受けました。1986年以降、今も被災者における甲状腺がん等患者が増え続けており、さらに次の世代にもその影響が現れている「可能性」があります。それにどのように対応すればよいか。先述通り、外見で把握できない事もあり、まだ科学的に解明されていない等、被災者および次の世代（それ以降も）に対して、主体的に取り組まなければなりません。そのため現地では、精神ケア、教育、安全な食事を提供しますが、最も大事な点は個人の情報を入手しそれぞれの体調に対応したサービスを提供するシステム

を構築している事です。また、子ども達は汚染地域に戻るため、放射線教育を施し、家族や地域で知識の共有を促していました。さまざまな学校から受け入れ、それぞれの学校の生徒が交流する機会を幾度も設けているため、理解度が高く協力し合う展望のある社会形成も考えているのではないかと思います。最後に、子ども達は、「外で遊ぶ事を楽しみにしていた」等、内に秘めていた思いを存分に実行に移し、「人並み」の生活を過ごし、結果として免疫力を付けて帰る事になります。このように、さまざまな工夫を施しながら保養システムが継続する理由は、人々が寄せ集めた知識の結合に加え、基盤として国の支援があるからです。例えば、200人近くの職員、特に若い人で専門家を中心とした雇用が確たる証拠です。そして、被災者と保養を支える若い人を育成し、システムを継続する事ができます。

日本の現状に焦点を戻すと、社会的に被災者支援に対して意識が低くなる一方、各地に保養を受け入れる団体が増えています。しかし経済的な基盤が薄い事、若い人が少なく育成できない事等さまざまな理由があり、国に支援を求めなければならないと考えています。一方、被災者支援は行われず、その結果、「住居・避難・帰還」を巡って、多くの地域や家族が分断されました。それゆえ、支援法は本来震災後すぐに制定しなければならなかったのです。今ようやく基本案が作成されましたが、その内容には多くの問題があります。（参考：「原発事故被災者の救済を求める全国運動」サイト）特に、住宅支援の更新、綿密な定期健診、子どもの精神ケア、公聴会を開くべき等、当事者の自主避難者の声が反映されていません。また数多くの自治体からも、年間放射線量が1mSv以上を越える地域は「支援対象地域」に指定すべき等、批判が相次いでいます。こうした情勢の中、「人並み」の生活を送れるよう最低限の保障を求めなければなりません。ベラルーシでは、事故処理作業員、主婦、医者、行政など人々が協力し国に求めていき、社会保障を受ける事ができました。生活が苦しい中立ち上がった被災者を中心に、私も協力していきたいと思います。（※中西さんは、11/2報告会に参加した福島さん、他の学生、子ども基金の小寺、佐々木と共に、今年2月「希望」を訪問しました。）

## 今年の「チェルノブイリ・ニュース」から

日本ではあまり伝えられませんが、現地のマスコミでは、現在のニュースとしてチェルノブイリが伝えられています。「チェルノブイリ原発4号炉の排気塔が現在解体されている。排気塔の重さは50トン。汚染が酷いため解体計画は数年がかりで計画された。排気塔はスクラップ化された後、石棺で覆われている事故炉の中に埋葬処分される予定。解体作業は12月に完了、2015年には石棺は新たに建設されている特殊なアーチ状構造物に覆われる」【11/15 ウクライナPodrobnosti (TV Inter)】2年後には石棺自体も覆いに囲われて、写真やビデオでお馴染みだった原発の姿は、間もなく大きく変わりそうです。事故直後に多大な犠牲を伴う人海戦術により突貫工事で建設されたコンクリート製の「石棺」は当初から不完全で、近年は老朽化が深刻で、数年前に大規模な補強工事が行われています。実際2月には大雪の影響で4号炉付近の機械ホールの屋根が一部崩落する事故が起きました。この時は幸い大事には至りませんでしたが、作業員が避難するなどの影響が出ました。万一、石棺自体が崩落した場合、中に残る膨大な量の放射性物質が再び大気中に放出され、大惨事を招くことが懸念されています。目下、日本を含めた国際支援により、石棺を覆う巨大構造物が建設されていますが、こうした基本的な安全策を講じるだけで実に30年近い歳月を要しています。

放射能汚染については、最近次のようなニュースが伝えら得ています。「キエフにある鉄くずの買い付け企業のストックの中から放射能に汚染されたパイプが見つかった。機材除染の専門家は、これは事前に除染されてチェルノブイリのゾーンから運び出されたパイプであると指摘する。内務省によると、汚染された金属の放射線量は基準値を上回っており、核燃料の崩壊に伴う放射性セシウムが検出されているという。今後、この金属くずは押収された上、

専門の国営企業で除染される」【11/14 ウクライナforUm】ウクライナの新聞が6月に報じた記事によると、チェルノブイリのゾーン内では国家管理の下、大量の金属資源や木材が除染された上で合法的に持ち出され、競売にかけているといます。しかし実際には勝手に持ち出されて闇市場で密売されるケースが相次いでおり、資材だけでなく、キノコや野イチゴ、食肉といった食料品まで流出しています。事故処理に使われたヘリコプターや軍用車両、重機などが放置された置場は、すでに殆ど何も残っていない状態であるともいます。さらに、5月半ばには、チェルノブイリ原発の役職者や警備員らが、発電所内の金属類約12トンを不法に持ち出し密売しようとした事件まで発覚しています。

ベラルーシでは、同国初の原発建設がロシアの企業を中心に進められています。周辺諸国で反対運動が起きていますが、残念ながらベラルーシでは反対活動は厳しく取り締まられており、多くの人の不安をよそに建設工事は着々と進められてしまっています。

ウクライナでは11月末になって、ロシア側からのさまざまな圧力を受ける形で、将来のEU加盟に向けた動きを停止する決定を発表したことを受け、これに反対する市民による数十万人規模の大規模なデモが首都キエフで開かれ、警察部隊と衝突するなど、情勢が緊迫化。さらに欧州寄りの西部を中心にした反政府デモと、ロシア寄りの東部を中心に政権を支持するデモも連日開かれ、背後で欧米諸国とロシアがそれぞれ綱引きを強めており、混乱は長引きそうです。事態は流動的であり、紙面の都合もあり詳しくは書けませんが、1日も早く状況が安定するよう願ってやみません。混乱の中で最も困難に直面するのは、いつでもチェルノブイリの被災者のような社会的に弱い立場の人々なのであります。

(平野 進一郎)

# 黒部ドクターのお話



## ～ かぜの話～

かぜとはどんな病気でしょうか。日常生活の中で良く使われる病名ですが、皆さんは本当にかぜのことを知っているでしょうか。医者ですらかぜの定義を聞くと答えられない人や、間違った使い方をしてる人がいます。何でも体の具合が悪ければ、かぜのせいにしておけば、医者の説明責任は済んでしまいますし、患者の方もなぜか納得してしまいます。つまりいい加減な使い方をされているのです。

かぜは「**かぜ症候群**」と言い、喉頭と気管の入口から上の上気道を中心とする急性呼吸器感染症をさします。気管から下は下気道ですから含みません。ですから症状は「発熱、倦怠、咳、鼻汁、のどの痛み」ということになります。急性上気道炎とも言います。しかし一般的にはもっと広い意味、すなわちウイルスや細菌や気象因子などの外因の作用で起きる一時的な体調の変化を「かぜ」（風邪）と言うことが多いのです。上記の症状に加えて、「気持ちの悪さ、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛」などもかぜと言うことが多いのです。だから、その中にはいろいろな病気を含んでいるため、「かぜは万病のもと」とか、「かぜから肺炎を起こした」とか医学的には正しくない使われ方をするのです。

特にかぜと間違われて問題になっているのは、大人の百日咳と高齢者の結核です。その他、アレルギー疾患や気管支炎、消化器疾患などもかぜと間違えられる病気です。ですから、診察時に他の病気と見分けなければいけません。でも時々「かぜだから風邪薬を欲しい」と医者に言う人がいますが、これも困ったものです。そういう人は、自分の考えを曲げません。かぜ症候群の原因は、80～90%がウイルス感染です。その他には、細菌があります。

**かぜ症候群の治療**は、ウイルスに効く薬が無いので、対症療法になります。しかし、体力を落とした時に病気になり、病気の症状は病気と闘うから出てくるのです。一番の薬は、休息です。

**かぜの症状**：発熱は感染症に伴う正常な反応であり、病気になった人が病気と闘うためにもっとも適切な温度になるように、脳にある温度調節中枢によって適応的、自律的にコントロールされているのです（ただし至適な環境温度にある時です）。発熱

（体温上昇）は免疫機能を活性化し、病気の人の生存率を高めるのです。鼻汁、鼻水、鼻づまりは鼻からの病原体の侵入を制限します。咳は鼻やのどや気管などの気道のクリーニングをし、鼻汁や痰として排出し、呼吸機能を維持します。吐き気やおう吐は、食物の摂取を抑え消化管の負担を減らし、体力を温存します。だから食欲のない時は、食べない方が体にとって良いのです。回復すると食欲が出て来ます。下痢も消化管からの毒素や病原体を排泄し、消化管の回復を促します。筋肉、関節痛は安静を必要としているからで、安静にして体力の消耗を防ぎます。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*

上記の症状は病気の人が病気（病原体）と闘うために有利な反応であり、安易な薬の使用は控えるべきで、特に解熱鎮痛剤は免疫機能を抑制してしまうので使うべきではないし、体力を温存すれば通常3～5日程度で回復します。たかがかぜだからと無理をすると長引いたり、他の病気を誘発したりします。休息しなさいという体のサインだと思って下さい。一般には症状がづらい時に、症状をやわらげる薬を使うのです。抗生物質は一般には効きません。しかし、扁桃炎は90%が細菌性ですし、のど（咽頭、喉頭）の痛みの1～2割は細菌性ですし、百日咳は軽いかぜからひどい咳が始まった時に有効な抗生物質を必要とします。これを診断するのが医師です。

自然治癒の仕組みが最大限に発揮されるように、安静度や室温、衣服、食事、水分摂取などの説明をし、出す薬の説明もしてくれる医師が信頼できます。**予防**は、体調をいつもよく整えておくことです。マスク、うがい、手洗いは、日本人だけのすることで、海外ではしないのが普通（効果が無いから）なので、海外のニュースや映画には出て来ません。かぜをひいた人が咳でウイルスをまき散らすことを減らす効果はあり、エチケットマスクと言います。

最後に、私はかぜで欠勤したことはありませんし、大抵熱が出るのは週末の休みの日で一日寝ていると治ります。それも若い時の話で最近熱が出た記憶はありません。

黒部信一：すずしろ診療所所長 小児科医師

黒部信一のブログ <http://kurobe-shin.no-blog.jp/>



## 里親のページ

### 里子の家族からの手紙

ナースチャは大分歩けるようになりました。毎日歩行訓練をしています。まだ言葉を上手に話せませんが、動作で意思表示ができるようになってきました。今まさに周りの全てものに好奇心を持つようになっているため、たとえ数分間でも一人にしておけません。でもこのことは彼女が順調に成長していることの証拠ですので、私たちにとってうれしいことです。処方されたてんかんの薬の副作用で、だるくなったり、眠くなったりして、遊ばなくなりました。てんかんの発作そのものもなくなりませんでした。このままではいけないと思い、その薬をやめました。無グルテン・無カゼインの食事と、砂糖をやめてみたら体調がよくなり、発作のない新しい人生が始まりました！窒息する心配をすることがなくなり、良く眠れるようになりました。もう発作はほとんど起きていません。ただ、ナースチャは胃も弱く、肝臓もちゃんと機能していないので、風邪薬の成分にも気をつけなければなりません。一度そのせいでひどい発作を起こし、4日間眠れぬ夜を過ごしたこともありましたが。今は、全ての薬やビタミン剤をアメリカから取り寄せています。胃の治療を始めて、肝臓も腎臓も回復しています。薬代は一月に230ドルぐらいかかります。夫は早朝から深夜まで働いています。おかげでナースチャに薬が買えるようになりました。他にも、両親と姉さんがとても助けてくれます。里親のSさんをはじめとして、助けてくれている

すべての方にとっても感謝しています。外部の助けがなければ大変だったと思います。娘には、薬だけではなく、食べ物にもなるべく自然のものをあげるように気を使わなければなりません。

私たちにとって今大きな問題は、こんな大きい子ども用のオムツが売られていないことです。少し値段が高くても質のよいものを探さなければと思っています。でも何とか良くなると期待しています。気を落とさないように頑張っています。お便りをお待ちしています。ご支援に心より感謝いたします。(ベラルーシ ミンスク市 ナースチャの家族より)

### 里子からの手紙



私はもう大学3年生です。大変なこともありますが、勉強はとても楽しいです。今年から、マーケティングを勉強しています。12時頃学校に行き、家に帰ってくるのは23時です。勉強にたくさん時間をとられますが、私は楽しんで勉強しています。最近、母と一緒に医師のところに行きました。私はまだ治療が続いています。

弟のアルチョムは4歳です。ダンスと、詩を読むことが好きです。母の以前働いていた職場は給料の支払いがなくなり、また仕事を探しています。もう年末が近づいていますので、この時期に新たな仕事を見つけるのは難しく、母はとても心配しています。

これが私と家族のニュースです。いつかあなたとお会いできたらとてもうれしいです。

(ベラルーシ ゴメリ市 ユリヤ)



## チェルノブイリの歌声 ～みなさまからのメッセージ～

◆厳しい現実であっても、写真の中の明るさが将来にも見出されることを願います。(愛知県 Sさん)



◆書斎と職場にカレンダーをかけたいと思います。福島の方に対しても、原発をなくすためにも、少しでも役立ちたいと思います。(静岡県 Mさん) ◆世の中から全ての原発がなくなり、人々が安心して暮らせるようになりますように！子どもたちに安心と幸せを。(東京都 Uさん) ◆身近にいる子育て中の方へのクリスマスプレゼントにします。チェルノブイリと福島の子どもたちの健康と安心のために少しでもお役に立てればと願います。(愛知県 Bさん)

◆もっときちんと考えなくては・・・。私たちの無知が引き起こしたことです。いつもカレンダーを傍らにおいて、考えたいと思います。(神奈川県 Oさん) ◆日本でもベラルーシのように国が支援して、子どもたちが無料で保養ができるようになることを訴えつつ、このカレンダーを宣伝しようと思います。(埼玉県 Nさん) ◆未だチェルノブイリの影響でヨーロッパ産のキノコ類等に影響が出ていることを知りました。今年もカレンダー申し込みます。(東京都 Sさん) ◆福島のこと、忙しい生活に流されて忘れてしまわないように、よく見えるところにカレンダーを掛けています。子どもたちに放射能の無い未来を残したいのに、福島は収束するどころか手のつけられない状態ですね。希望を捨てずに生きていかなければ。カレンダーを見て、元気を出したいと思います。



(愛知県 Nさん) ◆メッセージと芸術性に富むすばらしいカレンダーをありがとうございます。写真の一枚一枚、子どもたちの色彩が躍動する絵の一点一点に胸を打たれました。2012年カレンダーの最後の日が終わりましたら掛け替えます。(東京都 Oさん)

◆日々、生活に追われていると忘れてしまいそうな事を、カレンダーを見るたびに毎日思い出させてくれます。気持ち程度の支援ですが、誰かの役に立つと思うと嬉しいです。(愛媛県 Kさん)

◆チェルノブイリ事故発生当時から活動に、共感と感銘をしてきました。福島事故を防げなかったのは悔しいです。これから日本も厳しく辛い現実が続くと思うと暗澹としてしまいますが、息長く皆で克服してゆきましょう！(東京都 Yさん) ◆毎年感動を与えてくれるカレンダーです。諦めないで生き、燃焼しつくす若者たちに励まされて勇気もらっています。(神奈川県 Iさん)

◆チェルノブイリと福島を覚えていていただくために、クリスマスプレゼントに用います。(宮城県 Fさん) ◆長く、足をしっかり地面につけて救援活動をされていて頭が下がります。チェルノブイリも福島も、罪ない子どもたちの悲惨さ・・・もう、こういうことが繰り返されぬよう！

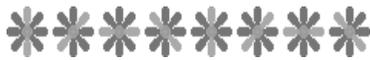
(東京都 Nさん) ◆講演会等にはなかなか伺えませんが、毎日救援カレンダーをながめていますと、少なくとも原発事故のこと、その影響を受けている方々のことを他人事のように感じることは阻止できているように思います。今後も自分のできる範囲で学び続け、少しでも何か力になれるようにしていきたいです。事故の影響を受けた方々の生活・心身の回復と貴基金のみなさまのご健康をお祈りしております。(東京都 Mさん)

◆毎年、カレンダーの素敵な写真と絵を楽しみにしています。来年は放射能の被害がない年であってほしいです。そしてみんなが幸せな日々をおくれるようお祈りいたします。(北海道 Iさん)

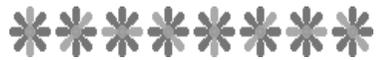
◆福島や原発事故で被害を受けた子どもたちの救援のため自分に何が出来るのかを考え、実行していきたいと思います。子どもたちには何一つ責任はなく、私たち大人の責任ですので、私たち大人が救援するのは当然です。いつも子どもたちのために頑張って下さってありがとうございます。

(京都府 Nさん) ◆何もできない歯がゆさをずっと持っています。少しでも出来ることをやっていきたい、そう思い、ようやくこのカレンダーに出会えました。つながっていくきっかけになればと思っています。(沖縄県 Mさん) 次頁に続く

※写真は、平成国際大学の大学祭での展示の様子(5頁に報告)。



# 募金・救援状況



## ●募金状況 2013年9月～11月

(単位:円)

|           | 9月               | 10月              | 11月            |
|-----------|------------------|------------------|----------------|
| 募金件数      | 109件             | 229件             | 164件           |
| 救援寄付金     | 376,337          | **3,632,671      | 755,137        |
| 保養費       | 42,000           | 134,450          | 110,790        |
| 特別保養費     | *1,105,555       | 70,000           | -              |
| 里子支援      | 116,270          | 150,110          | 16,630         |
| ニュース購読費   | 38,000           | 52,000           | 38,000         |
| <b>合計</b> | <b>1,678,162</b> | <b>4,039,231</b> | <b>920,557</b> |

\*生活協同組合パルシステム東京より贈呈された平和カンパ

\*\* (株) カタログハウスより運営費としての募金 100 万円、匿名の方よりの募金 2 万ドルを含む

☆ほかに現物寄付として切手 2,590 円分

## ●救援状況 2013年9月～11月

(単位:円)

<ウクライナ>

### ◎内分泌研究所

医薬品

921,682

<ベラルーシ>

### ◎困難の中の子どもたちへ希望を

里子支援 21 人(7～12 月分、10 月～14 年 3 月分)

640,128

緊急支援 1 人

29,820

## 【チェルノブイリの歌声～

### みなさまからのメッセージ～】

p.14 からの続き

◆10月16日早朝、台風26号がこの自然に囲まれた静かで平和な大島町を襲い、多大な被害をもたらしました。大島町元町港近くのサンセットパームラインからの夕日は心洗われる美しさです。(略)16日の夕日は他の日よりも数倍きれいな真紅で海を染めていました。このあまりに綺麗な夕日を見ながら、自然の威力には私たち人間がいかにも無力であるかを実感しました。自然は時として残酷です。17日から大島高等学校のボランティアの生徒たちや先生たち(全生徒105人中80数名が参加)は被害区域に入り、復旧作業を開始しました。あまりの被害の大きさにめまいを覚えながら、みんな黙々と作業を続けました。瓦礫や流木、土砂などを取り除きながら私は"福島"を考えていました。2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による災害では、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い放射能が流出しました。復旧作業をするために福島を訪れたボランティアの人たちは

## ♡募金団体名一覧♡

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。ご寄付をいただいたみなさまに心より感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

【9月】自治労横浜総務支部／トランスフェリックマネジメント／生活協同組合パルシステム東京(平和カンパ)\*／(株)ジョイメイト／日本山妙法寺／子どもたちの心の音実行委員会

【10月】イラク写真展の会 in 三重名張有志／(株)ジョイメイト／西小岩幼稚園／トランスフェリックマネジメント／一戸南小学校 児童会／(株)鹿王企画／(株)カタログハウス／(株)桜井書店／佐藤法律事務所

【11月】八王子市民の学校 まなび・つなぐ広場／トランスフェリックマネジメント／恵泉女学園中学・高等学校 文化祭委員会／広瀬化学薬品(株)／(株)ジョイメイト／ブリランテ音楽スタジオ／リサイクルグループ カリーナ／広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会／グループ・かえる

\*パルシステム東京では、毎年7・8月に平和カンパを実施し、現地で活動しているNGO団体を通じて世界の貧困・紛争・飢餓等の中にいる子どもたちへ届けています。「2013年度平和カンパ」では、延べ9,289人の組合員から総額749万2,685円のカンパ金が集まりました。集まったカンパ金は、贈呈団体により世界各地の未来を担う子どもたちに支援活動を通して届けられます。



大島町元町地区での復旧作業に従事している私たちよりも何倍、何十倍、何百倍もの危険を覚悟の上で復旧作業をなさったのだと思い、本当に頭が下がる思いでした。(東京都大島町 Tさん) ◆NEWS no.94の木村真三氏「誰のための研究なのか?」現地を見ず論文だけで国民を惑わす学者を批判。good!(宮城県 Oさん) ◆(4月講演会)DVDをありがとうございました。「弦楽四重奏団オブリジェ」の演奏は心に残りました。皆様の援助に心から共感し続けています。(山形県 Iさん) ◆いつも通信をありがとうございます。子どもたちの未来が心配でなりません。(大阪市 Hさん)

# 事務局から

## ■ボランティア募集

◎ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)

次回 日時:3/15(土)午後1時～4時頃まで

場所:東京ボランティア・市民活動センター

(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)

※日程が変更になる場合もありますので、ボランティア参加希望の方は、前日までにご連絡ください。

【問い】平日午前10時～午後5時 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 03-5228-2680

◎事務局での平日・土曜日のボランティア作業は不定期に行っています。前もってお問い合わせください。

## ■「基金ニュース」について

募金をくださった方には、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュースレター購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

### すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便振込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

### 払込取扱票のお名前・ご住所は楷書でご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

### 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書が入り用の際はお申し出ください。



2012年4月来日したオリガさん

8月に無事男の子を出産

オリガさんは子どものころに甲状腺がん

の手術を受け、その後も放射線治療が続いたため、長い間子どもを作ることができませんでした。彼女の母親、ワレンチーナさんは、慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」を設立し、現在も代表を務めています。二人は2012年4月に子ども基金の招きで来日。「チェルノブイリ26周年救援キャンペーン/講演会 チェルノブイリと福島」において、自らの体験を語りました。オリガさんは、「日本のみなさん、絶望しないで、素晴らしい未来を信じてください。大事なのは、健康と、前向きな気持ちを持ち続けること」と話し、「まだ子どもをもつことのできない自分、子どものいる若い母親がうらやましいと思っている。近いうちに自分も子どもがほしい」と話しました。その願いが叶いました。出産前には体調を崩し入院していましたが、無事に産。男の子はニコライと名付けられました。

### ★クリスマスプレゼント、新年のプレゼントにも最適!

~~~~ 在庫あります・まだ間に合います! ~~~~

「2014年チェルノブイリ救援カレンダー

～チェルノブイリ・福島 命は宝～

1部 1000円(送料別)/10部以上 1割引 送料無料

★たまにはメールでなく葉書を送ってみては・・・

ポストカード(広河隆一撮影の子どもの写真)

1セット:6枚入り 500円(送料別)



<編集後記>

多くの市民の反対を押し切り、特定秘密保護法が成立。落胆する間もなく、政府「原発ゼロ撤回」とのニュースが。また原子力村の復活も言われています。しかし、私たちはひるまず、原発反対の声を上げ続けましょう。(む)

<2014年カレンダー6月・見開きページ>



●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年4回発行●

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25 メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680

ウェブサイト http://homepage2.nifty.com/chernobyl_children/index.html

E-mail: chernobyl1986@tokyo.email.ne.jp

事務局ブログ ◇神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/chernobyl1986jimukyoku/>

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。